

SGHリレー講座 高校2年

大学出前講義

- 1 茨城大学 人文学部 人文コミュニケーション学科 伊藤哲司先生
「非暴力で世界に関わる方法」
～正義の味方・ウルトラマンは、戦場で誰の見方をするか?～
- 2 高崎経済大学 地域政策学部 観光政策学科 井門隆夫先生
「ひとの力が地域をつくる」～地域政策学部の魅力と取組～
- 3 山形大学 工学部 大学院理工学研究科 機械システム工学分野 大町竜哉先生 (木)
「人工知能と知的CADシステム」
- 4 新潟大学 医学部 保健学科 看護学専攻 中村勝先生
「世界に広がる保健医療・看護への道」
- 5 宇都宮大学 国際学部 留学生・国際交流センター 湯本浩之先生
「ワークショップで考える異文化理解」

2016年11月10日(木)6・7限、高校2年生対象の「大学出前講義」を行いました。生徒は、上記の5つの講義の中から1つを選び受講しました。それぞれのテーマには「**世界、地域、人工知能、異文化理解**」といった**SGHに関わるキーワード**が盛り込まれており、生徒一人一人が自らの進路や人生の選択について考える良い機会となりました。



<生徒の事後アンケートより>



講義1 「非暴力で世界に関わる方法」：茨城大学 人文学部 伊藤哲司先生

受講者31名



<受講に当たり、知りたかったこと、聞きたかったこと>

- ・非暴力社会をめざすために、どのような取組が必要か
- ・戦争はなくなるのか。
- ・これから人類が取り組むべき一番の課題は何か。



<講義内容で印象に残った点、感想等>

- ・絶対的正義の無力さを知ったと同時に、非暴力でも世界を変えていくことは可能であるかもしれないと希望を持った。
- ・今まで集団的自衛権を平和の側面から考えていなかったが、今回の受講により、自分自身で政治に対して考えていく必要があると思った。

講義2 「ひとの力が地域をつくる」：高崎経済大学 地域政策学部 井門隆夫先生 受講者32名



〈受講に当たり、知りたかったこと、聞きたかったこと〉

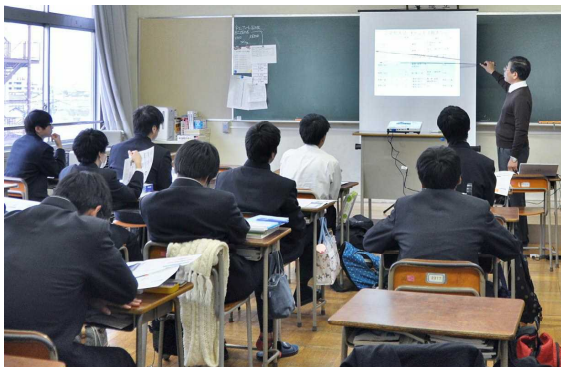
- ・地域政策とは具体的に何を行うのか。
- ・地域や社会を引っ張っていくリーダーとはどのような人材なのか。どうやってまちづくりをしていくのか。



〈講義内容で印象に残った点、感想等〉

- ・分からないことがあったら、まず仮説を立ててから調べることが大切だと思った。
- ・地域をつくるには、自分の頭で考え、ゼロからアイデアを創造するという言葉が印象に残った。全く関係がないように思えることが活性化に密接に関係していた。
- ・大学では、「正解のない問い」に挑戦していた。

講義3 「人工知能と知的CADシステム」：山形大学 工学部 大町竜哉先生 受講者24名



〈受講に当たり、知りたかったこと、聞きたかったこと〉

- ・工学部はどのようなことをする学部なのかを具体的に知りたい。
- ・設計と製造を両方とも大学で学ぶことは可能か。



〈講義内容で印象に残った点、感想等〉

- ・学問とは小さなものを積み重ねた集合体のようなと感じた。大学での研究にとってもわくわくしている。
- ・設計の過程で、組み立てた時に生じる誤差のことまで考えていることに驚いた。

講義4 「世界に広がる保健医療・看護への道」：新潟大学 医学部 中村勝先生 受講者31名



〈受講に当たり、知りたかったこと、聞きたかったこと〉

- ・国際看護学とは何なのか。
- ・看護においてグローバル化とは何か。
- ・日本の医療が世界にどのように貢献できるのか。



〈講義内容で印象に残った点、感想等〉

- ・途上国では多くの健康上の課題(水、食糧、住居等)がある。国際看護は、現地の人々の文化や社会システムなどをよく学び、その上で活動することが大切である。
- ・看護師は病院や診療所だけでなく、様々な場所で働いている。世界にはまだまだ医師や看護師を必要としていることがわかった。

講義5 「ワークショップで考える異文化理解」：宇都宮大学 国際学部 受講者26名

留学生・国際交流センター 湯本浩之先生



〈受講に当たり、知りたかったこと、聞きたかったこと〉

- ・異文化を理解するとはどういう事なのか。
- ・大学でのワークショップを体験したい。



〈講義内容で印象に残った点、感想等〉

- ・文化に優劣はないということ。台湾に行った時に「日本の方が優れている」と感じた自分を反省した。
- ・トランプゲームでは少しルールが違うだけで意見の対立が起こった。このようなことが異文化の対立になる。
- ・無知は無理解を生み、無理解は憎悪を生む。そして憎悪こそが戦争を生む、という言葉が印象的だった。